

いつも応援ありがとうございます！ エコチル調査メールマガジン第34号をお送りします。

エコチル調査からのお知らせです。

2015年12月15日（火） 第4回エコチル調査国際シンポジウム、
2016年1月16日（土） エコチル調査5周年記念シンポジウム を開催します！
詳しくは、「3. エコチル調査からのお知らせ」をご覧ください。

〈目次〉

1. おしえて、エコチル先生！
2. ユニットセンター奮闘記
3. エコチル調査からのお知らせ

★

1. おしえて、エコチル先生！

★

エコチル調査の集計結果を紹介する、「おしえて、エコチル先生！」。今回は、2歳時の「子育てのことを話せる環境」についてです。国立成育医療研究センターの小枝達也先生が解説してくださいました。先生は小児科と小児神経の専門医であり、エコチル調査メディカルサポートセンターの精神神経発達分野プロジェクト長です。

2歳児をもつエコチルママさんたち約26,500人に、子育てのことを話せる環境について、聞きました。

お母さんとパートナー(配偶者など)が、子どもの話をする回数について聞きました。その結果、約7割のお母さんは、週5回以上パートナーとお子さんの話をする機会があり、その一方で週1回にも満たないお母さんが約5%いました。

また、お子さんと同じ年代の子どもを持つ保護者同士の交流機会の回数についても聞きました。約7割のお母さんは、月1回以上、保護者同士の交流機会をもっていました。その一方で交流の機会がめったにないというお母さんも約3割いました。

エコチル調査では環境中の化学物質が子どもたちの精神神経発達に与える影響を調べることも目的の一つとなっています。「子どもの育ち」には、保護者の気持ちのゆとりなど、さまざまな子育て環境が影響します（これらを交絡因子と呼びます）。ですから、こうした交絡因子を同時に調べておく必要があるのです。

ひと昔は「子育て不安」を如何に減らすかが、子育て支援のテーマでしたが、最近では「育児困難感」を軽減し、「ゆとりある子育て」が大切だと言われています。パートナーと子育てについて話し合うことで、一体感を持って子育てができ、子育てのゆとりへとつながります。

また、幼児も2歳になると感情や意思の表出が豊かになってきます。イヤイヤが増えてきて、手をやくことも多いのではないのでしょうか？そんなときは保護者同士が交流することで、気晴らしができたり、自分だけではないことを知り、ちょっとホッとしたりできます。こうした交流がもっと増えてくるといいですね。

☆☆ 集計結果のグラフなどは、ホームページをご覧ください！ ☆☆
<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/maimagazine/column/column30.pdf>

< お詫び：前回の「おしえて、エコチル先生！」の文章の一部に



2. ユニットセンター奮闘記



エコチル調査では、10万組の親子に全国15地域で調査に参加していただいております。各地域のユニットセンターが13年以上に渡る長い参加継続を支えています。このコーナーでは、各ユニットセンターの特色や取り組みをご紹介します。

◎北海道ユニットセンター

北海道ユニットセンターでは、札幌、旭川、北見の3地域で、8,362名のお母さんにご参加をいただいております。調査に関わるスタッフは49人です。エゾリスをモデルとした、オリジナルキャラクター「エゾチルくん」が登場する広報誌『エゾチル通信』を通じて、参加者様に情報発信をしています。広大かつ雪国ならではの苦勞もありますが、長く続く調査に継続してご参加をいただけるよう、スタッフ一同、工夫と努力を重ねております。

◎宮城ユニットセンター

宮城ユニットセンター（東北大学：仙台）の調査登録者のお母さんは9,217名、調査地域は、沿岸部（気仙沼、南三陸、石巻、女川、岩沼、亶理、山元）、内陸部（大崎、栗原、登米、涌谷、美里、加美、色麻）の14自治体と広範囲に渡るため、気仙沼、石巻、大崎、栗原にサブセンターを設置しております。現在、エコチル調査全体の業務に総勢38名で取り組んでいます。また、17名のRC（リサーチコーディネーター）を中心に詳細調査が順調に進んでいます！！

◎福島ユニットセンター

全国で3番目に広い福島県ですが、2011年東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故後、調査地域の全県拡大を望む声が高まり、翌年59全市町村が対象地域となりました。リクルートしたお母さんの数は13,000名を超え、この期間の「2人に1人」の妊婦さんのご協力をいただきました。現在、福島市・郡山市の2事務所45名のスタッフが関係者の皆様とともに、子どもたちの成長を13年間見守ろうと日々県内を走り回っています。



3. エコチル調査からのお知らせ



○ 第4回エコチル調査国際シンポジウムを開催します（日英同時通訳付き）

日 時：2015年12月15日（火） 13:30～15:50

場 所：国連大学 ウ・タント国際会議場

参加費：無料

※ 詳細・参加申込は、
<http://www.env.go.jp/press/101646.html>

○ エコチル調査5周年記念シンポジウムを開催します

日 時：2016年1月16日（土） 14:00～16:10（予定）

場 所：日本科学未来館 7階 未来館ホール

参加費：無料

内容（予定）

1. 基調講演

エコチル調査研究者による5年間の振り返り並びに集計結果の紹介

エコチル調査コアセンター長 川本俊弘

2. 特別講演

- 子どもの健康と化学物質
淑徳大学教授 北野大
3. パネルディスカッション
テーマ：これからのエコチル調査－10万組の親子と一緒に
コーディネーター：
日本科学未来館 サイエンスコミュニケーター
エコチル調査甲信ユニットセンター長 山縣然太郎
パネリスト：
淑徳大学教授 北野大
エコチル調査コアセンター長 川本俊弘
エコチル調査メディカルサポートセンター特任部長 大矢幸弘
他

※ 詳細・参加申込は、
<http://www.env.go.jp/press/101712.html>

～☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆～

「サポーターのみなさんへのお願い」

あなたの身近な人に、エコチル調査をお知らせいただけませんか？
10万組もの方々に参加を続けていただくためには、
ひとりでも多くの人に、エコチル調査を知っていただく必要があります。
子どもたちのすこやかな未来のために、ぜひともご協力をお願いします。

～☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆～

- ・エコチル調査ホームページ
⇒ <http://www.env.go.jp/chemi/ceh/index.html>
- ・メールマガジンのバックナンバーはこちら
⇒ <http://www.env.go.jp/chemi/ceh/mailmagazine/backnumber.html>
- ・メールマガジンの配信停止
下のアドレスへ空メール(タイトル、本文未入力)を送信してください。
⇒ ecochildteishi@ecochil.go.jp
- ・配信先メールアドレスの変更をご希望の方は、
新しいメールアドレスで再度サポーター登録をお願いします。
⇒ <https://www.env.go.jp/chemi/ceh/entry/index.html>

※このメールアドレスは配信専用です。

発行／編集
環境省 環境保健部 環境リスク評価室
エコチル調査担当

□-----□